

平成 24 年 8 月 23 日

アオコ情報 (No. 10)

今後一週間は、土浦入りや高浜入りを中心にしてこれまで以上にアオコが集積する場所がみられると考えられます。また、アオコの集積と強い日射の影響によってレベル 6 のアオコが見られる場所が増加してくると考えられます。安塚沖ではアオコの原因となるラン藻が確認されており、アオコが発生してくる可能性があります。注意が必要です。

《調査内容》

場所：西浦，北浦

日時：平成 24 年 8 月 21 日 午前 7 時 25 分～午前 12 時 04 分

内容：気象等，アオコの発生状況，フィコシアニン濃度

《結果》

①アオコの発生状況（アオコレベル）

図 1 にアオコの発生状況を示します。西浦では土浦港周辺でアオコレベルが 3～6 と高くなっていましたが、掛馬沖～外浪逆浦沖は 2 と低めでした。（高浜入りを 8/15 に調査した結果、深奥部ほどレベルが高く、山王川沖でレベル 4 でした）。北浦では釜谷から～安塚までは 0～1 とほとんどアオコは見られませんでした。

※) 「見た目アオコ指標」を参考にした。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00190.html> (霞ヶ浦河川事務所へのリンク)

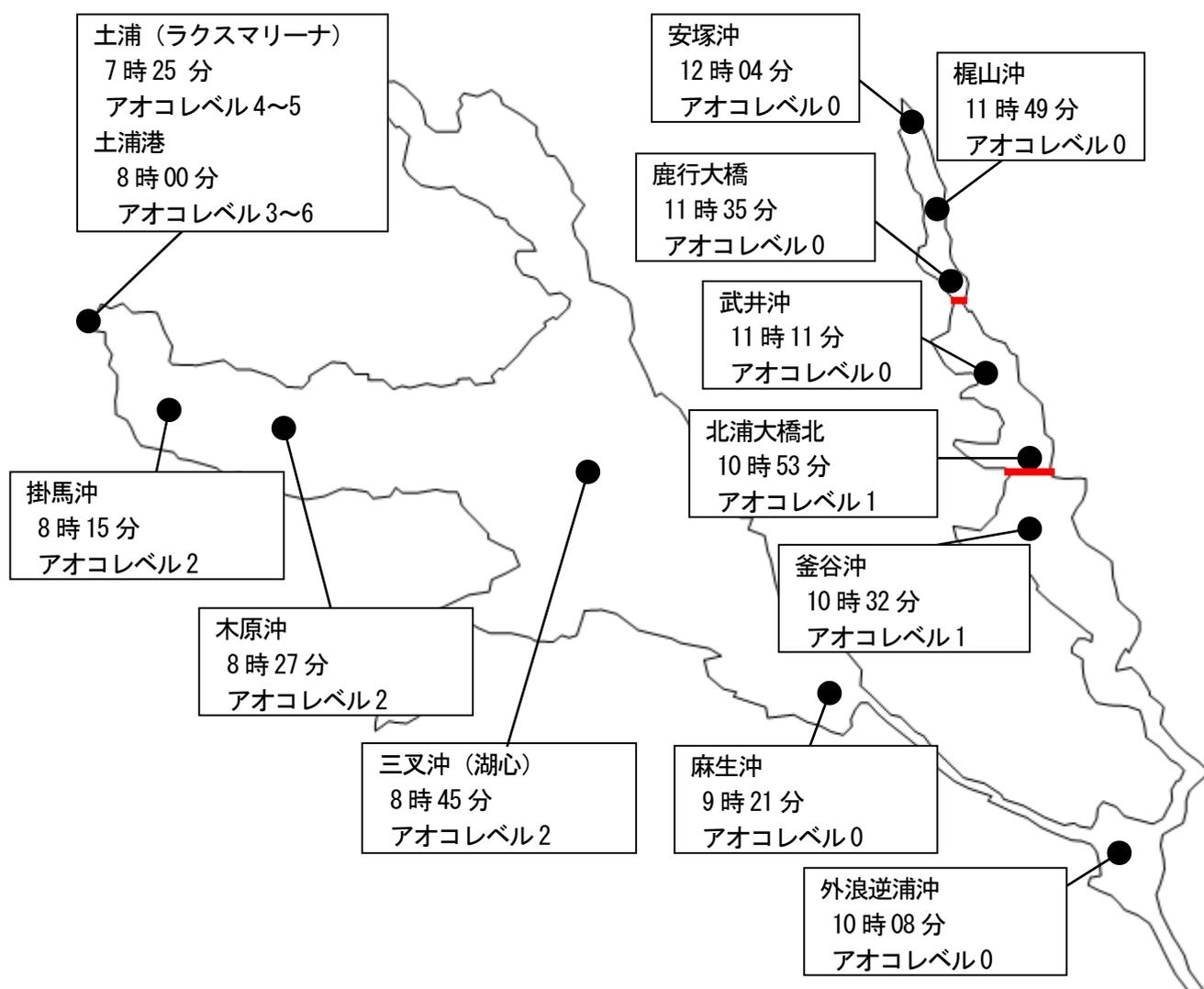


図1 アオコの発生状況

②表面水温及び透明度

表面水温は 29℃～31℃で、アオコの主要構成種であるミクロキスティス属の増殖が盛んになる水温（最適水温は 30℃程度）になっています。

地点名	天気	表面水温 (°C)	透明度 (cm)
土浦 (ラクスマリーナ) 棧橋	晴れ	31.0	40 (35)
湖心	晴れ	29.5	70 (90)

武井沖	晴れ	28.5	80(70)
安塚沖	晴れ	26.6	65(55)

注) 透明度の括弧は今年の8月17日の値

③フィコシアニン濃度

6月中旬以降のフィコシアニン濃度[※]の推移を図2に示します。土浦(ラクスマリーナ)は8月中旬～下旬にかけて著しく増加しました。安塚沖は湖心や武井沖に比べて高めですが、横ばいで推移しています。湖心、武井沖では低位横ばいでした。

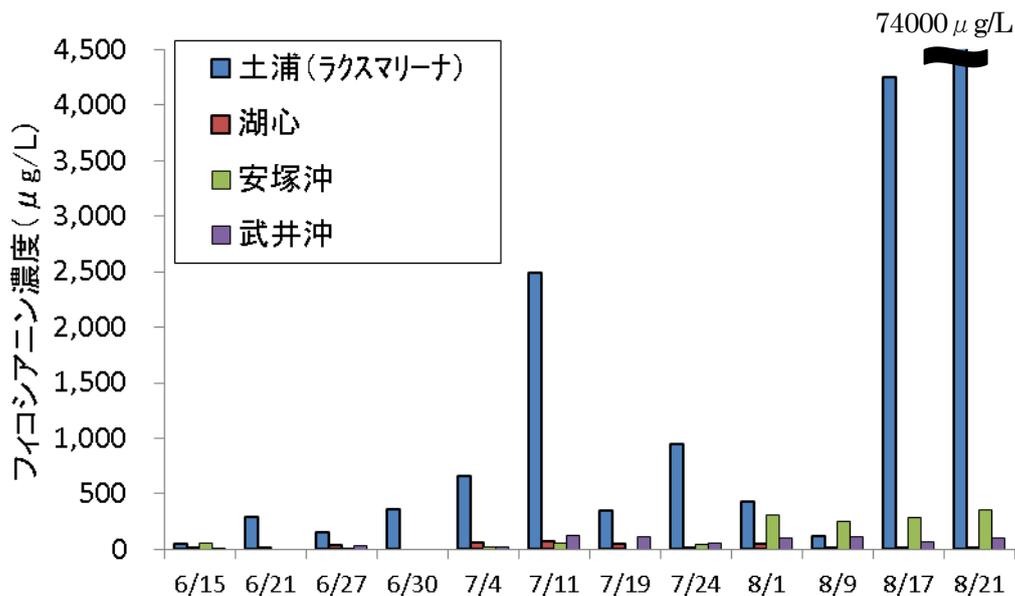


図2 フィコシアニン濃度の推移

※フィコシアニン濃度

アオコの原因となるラン藻にはフィコシアニンという色素が含まれています。アオコの量とフィコシアニン濃度とは一定の相関関係がみられ

るため、アオコの発生量の目安になると考えられます。

④アオコ発生の今後の見通し

アオコの発生と気象条件（水温（気温）、風、日射量など）には密接な関係があることが知られています。気象庁（8月23日11時発表）によれば8月24日（金）～30日（木）は高気圧に覆われて「晴れ時々曇り」で推移すると予測されています。また、気温は連日30℃を超えて夏日になり、降水量も平年より少なく推移すると予測されています。これはラン藻の増殖に適した気象条件であり、ラン藻が著しく増殖すると考えられます。

今後一週間は、土浦入りや高浜入りを中心にしてこれまで以上にアオコが集積する場所がみられると考えられます。また、アオコの集積や強い日射の影響などによりレベル6のアオコが見られる場所が増加してくると考えられます。安塚沖ではアオコの原因となるラン藻が確認されており、アオコが発生してくる可能性があり注意が必要です。



茨城県霞ヶ浦環境科学センター

Ibaraki Kasumigaura Environmental Science Center

担当：湖沼環境研究室

住所：〒300-0023 茨城県土浦市沖宿町1853番地

電話 029(828)0963 (dial in)

FAX 029(828)0968

